

4 こどもと若者のくらし

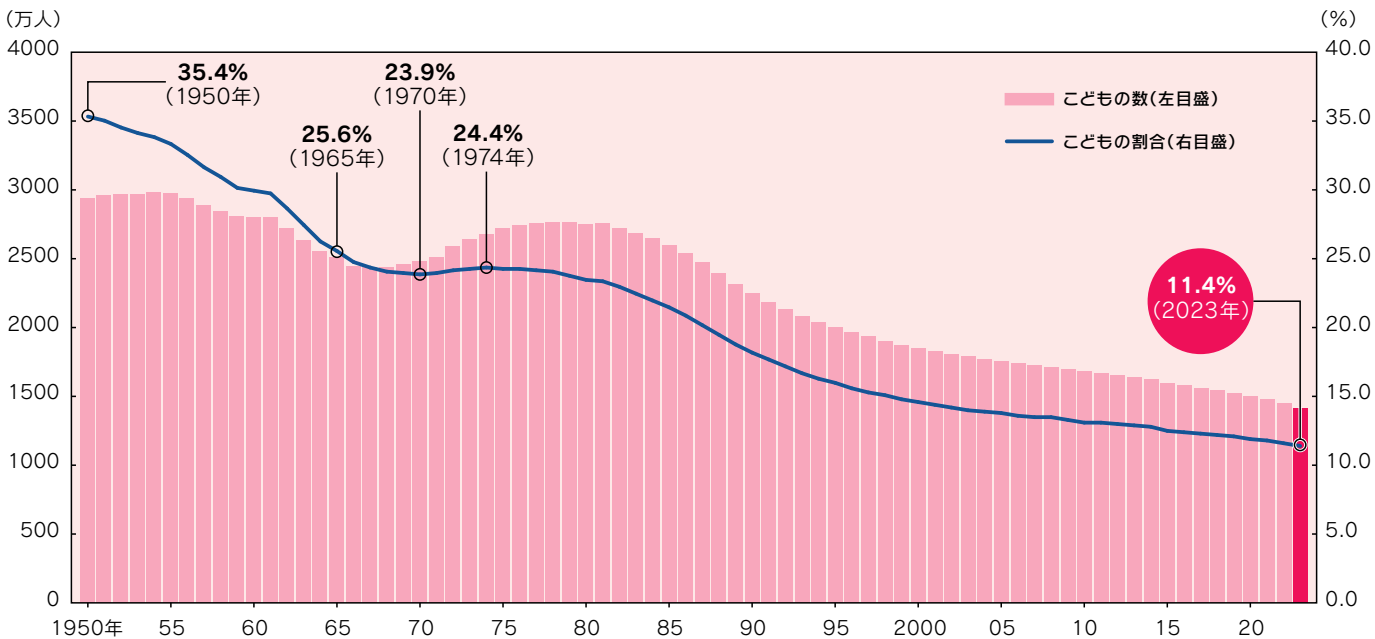


こどもの割合は11.4%、49年連続の低下

こどもの数及び割合の推移(1950年~2023年)

総人口に占めるこども(15歳未満人口。以下同じ。)の割合は、1950年には3分の1を超えていましたが、1965年には約4分の1となりました。

その後、1970年まで低下が続いたこどもの割合は、第2次ベビーブーム期(1971年~1974年)の出生児数の増加によって僅かに上昇したものの、1975年から再び低下を続け、2023年は11.4%と、49年連続の低下となりました。

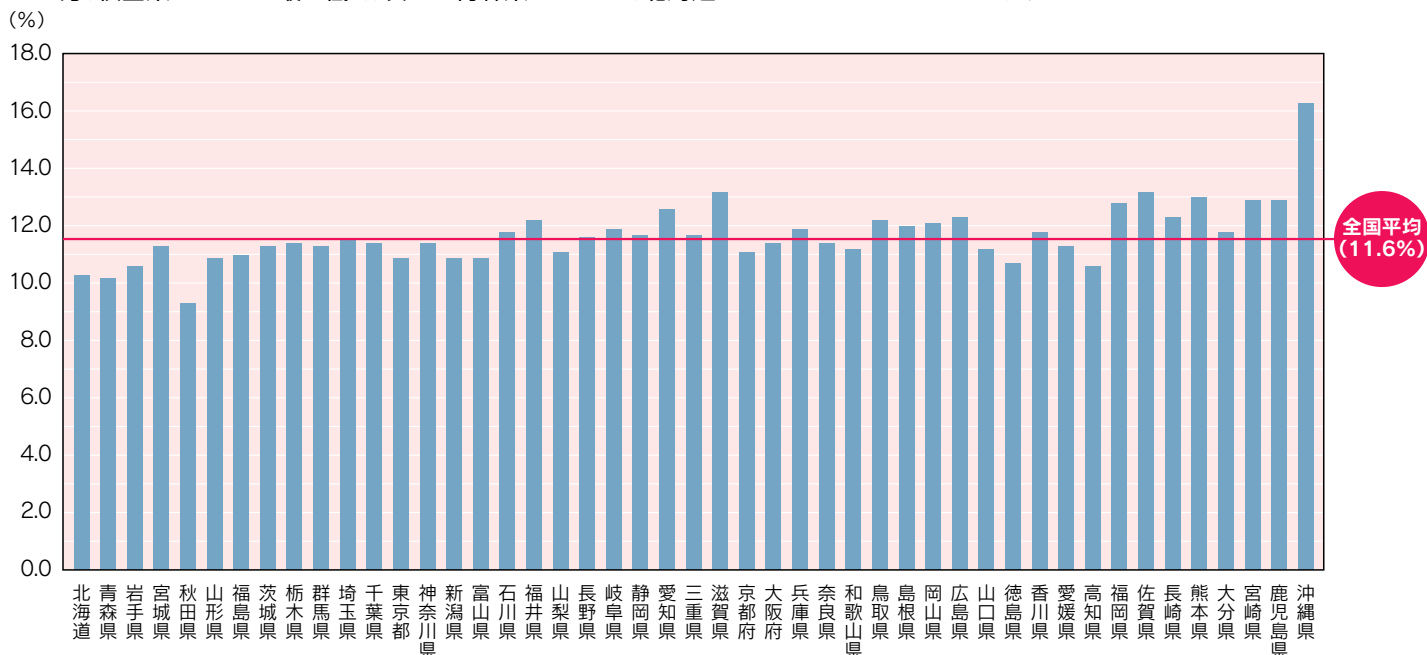


注：2023年人口推計は概算値
資料：「国勢調査」及び「人口推計」

こどもの割合は沖縄県が最も高く16.3%

都道府県別こどもの割合(2022年)

都道府県別人口に占めるこどもの割合は、沖縄県が16.3%と最も高く、次いで滋賀県及び佐賀県が13.2%などとなっています。一方、秋田県が9.3%と最も低く、次いで青森県が10.2%、北海道が10.3%などとなっています。



資料：「人口推計」



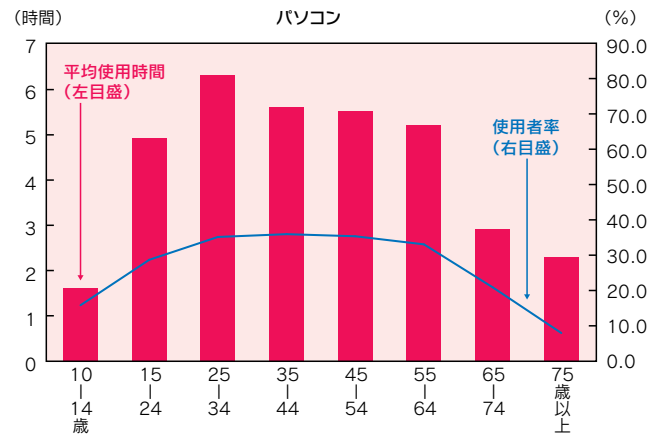
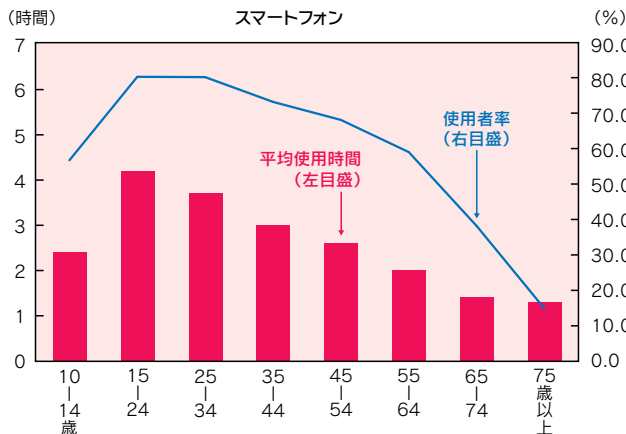
スマートフォン・パソコンなどの 使用者率は25～34歳で85.9%と 最も高く、平均使用時間も最も長い

年齢階級別スマートフォン・パソコンなどの使用者率及び平均使用時間(2021年)-週全体

スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合(使用者率)は65.0%、行動者平均時間(平均使用時間)は4時間29分となっています。また、スマートフォンの使用・パソコンなどの使用別*にみると、スマートフォンの使用者率は57.6%、平均使用時間は2時間48分となっています。パソコンなどの使用者率は29.0%、平均使用時間は4時

間56分となっています。

次に、年齢階級別に使用者率と平均使用時間をみると、スマートフォン・パソコンなどの使用者率は25～34歳で85.9%と最も高く、平均使用時間についても25～34歳で5時間47分と最も長くなっています。

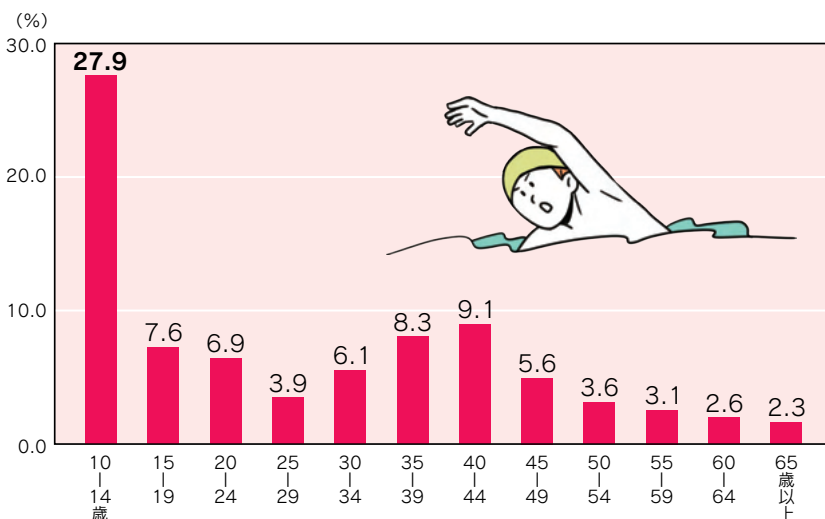


* スマートフォン及びパソコンなどの使用は複数回答あり
資料: 社会生活基本調査結果

「水泳」の行動者率は10～14歳が27.9%と最も高い。 4人に1人が「水泳」を行うとともに、同年齢で「ウォーキング・ 軽い体操」に次いで行われた種目

「水泳」の年齢階級別行動者率(2021年)*

「水泳」の行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が27.9%と最も高く、およそ4人に1人が「水泳」を行ったといえます。また、スポーツの種類別行動者率をみると、10～14歳では「水泳」は「ウォーキング・軽い体操」に次いで2番目に高い行動者率の種目となっています。



* 行動者率とは、過去1年間に該当する種類の活動を行った割合(%)
資料: 社会生活基本調査結果

スポーツの種類別行動者率(10～14歳) -上位10種類-(2021年)

10～14歳 (%)	
順位	種類
1	ウォーキング・軽い体操
2	水泳
3	ジョギング・マラソン
4	バドミントン
5	サッカー
6	野球
7	バスケットボール
8	卓球
9	サイクリング
10	バレーボール